

袋詰体を用いた干潟潜堤の設計手法に関する研究

熊谷 隆宏¹⁾, 池野 勝哉¹⁾

Design Method of Submerged Dike by use of Soil Bags for Man-made Tidal Flat

Takahiro Kumagai¹⁾ and Katsuya Ikeno¹⁾

■ 要 旨 ■

人工干潟の形状として、波浪および土圧に対する干潟の安定性を確保するため、前面に潜堤を設置することが一般的である。また、浚渫土の有効活用を目的として、干潟の材料に浚渫土を用いるケースが多い。浚渫土のさらなる有効活用を図るため、本研究では、潜堤の材料として、袋材に浚渫土を中詰めした袋詰体を提案する。潜堤が袋詰体によって築堤されるとき、積層構造となるが、これまで、袋詰体の積層構造物を築造した例は少ない。また、提案する潜堤の袋詰体には、粘性土を用いることも考えられるが、従来、取り扱いの容易さから、砂が一般的に用いられている。本研究では、粘性土を中詰めすることを含めて、確立されていない袋詰体の積層による干潟潜堤に関する設計手法を提案する。

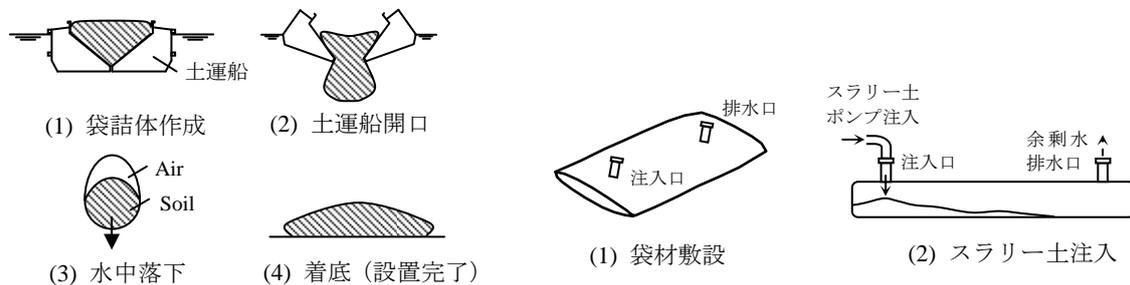


図-1 投入方法による袋詰体設置方法

図-2 敷設注入方法による袋詰体設置方法

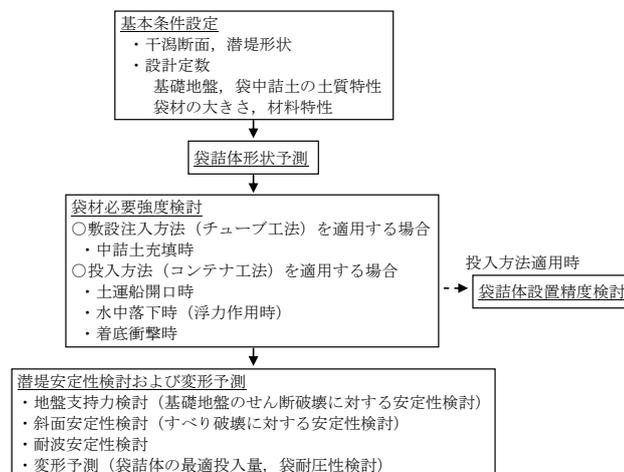


図-3 袋詰体を用いた潜堤の設計手法の提案